

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271201301		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	グループホーム ワカバ まつど		
所在地	千葉県松戸市南花島4-65-5 阪田マンション2F		
自己評価作成日	平成23年10月6日	評価結果市町村受理日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成23年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、思いやりといたわりの心を持ち、その人がその人らしく過ごせるよう日常の小さな変化も見逃さないよう支援しています。月1回の外出行事を年間計画に組み入れ、ホーム内においても誕生日会など利用者様と共に取り組み、日々の生活の中で、喜怒哀楽を共有することが大切と考えています。また、ご家族様にもご参加頂き、時間を共にしていただける機会を設けています。昨年は、お花見やクリスマス会に多くのご参加を頂き、たくさんの笑顔がみられました。職員間のコミュニケーションも密に取れており、連携も良いことが、より良い支援へと繋がっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念をもとに管理者や職員が話し合い、ホームの年度のケア目標を作り上げ実践している。今年度は「ダメと言わないケア」が目標であり、スピーチロック(言葉による拘束)の弊害を全職員が理解し取り組んでいる。また、管理者は記録の重要性を理解しており、入居者一人ひとりの状況が毎日記録される台帳、ケアでの気づきを記入する連絡ノート、利用者・家族意見ノートなど様々な情報の記録に努めている。管理者と職員はこれらの情報を共有し、ホームの運営やケアサービスに反映させている。ホームでは介護度が高くなり車椅子の利用者も増えているが、機能低下の予防を兼ね散歩を日課とする外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングルームやスタッフルーム、スタッフ用トイレに掲示し、いつでも確認できるようにしている。	法人の理念をもとに管理者と職員で話し合い、ホームの年度のケア目標を作り上げている。ケア目標は運営推進会議で提示するとともに、日々振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩の時間などを通じ、挨拶を交わしたりする機会も増え、庭で咲いた花を分けて下さる方もいらした。また、エコキャップ運動に賛同頂いた方がキャップを届けて下さるようになってきている。	町内会に入っており、クリーンデーでは職員とともに入居者も清掃に参加することもある。また、地元の小学生の職場体験も受け入れており、終了後は生徒から御礼の手紙が送られてくるなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつホームの存在も周知頂けているように思う。24時間TVチャリティー募金を続ける事により、年々参加者が増えてきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域包括支援センター、民生委員、介護相談員の方々にご出席頂き、2ヶ月に1回の運営推進会議の実践が出来た1年だった。	運営推進会のメンバーには事前に案内を送付し、出欠を確認し会議を開催している。相手の都合もあり多数の参加には至っていないが2ヶ月に1度の会議が出来ている。	会議には多様な方面からの参加があるとよいと思われるので、メンバーへの更なる働き掛けが望まれる。また、外部評価や目標達成計画などの取り組みについて、参加者の意見を求め、運営やサービスに活かすことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回松戸市の介護相談員の方が訪問して下さっている。連絡ノートを通し職員間とも情報の共有をしている。生活保護の方もいる為、生活支援課の担当の方とも連絡を取り、相談や状態の変化なども伝え、訪問も頂いている。	市の生活支援課職員の訪問があるほか、介護相談員の毎月の訪問がある。また、ケアプランや事故報告などで担当部署を訪問し、情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドのサイドレールや行動の制限をしない(ダメと言わないことを目標)ことなど、日々のケアの中で実践している。今年度は職員の身体拘束廃止の外部研修はできていない。	今年度のケア目標は「ダメと言わないケア」であり言葉の拘束を取り上げている。ミーティングや日々のケアのなかで徹底し、拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を起こさぬよう、見逃さないよう、各職員同士心掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営者がセミナーに参加し、管理者やスタッフに内容の周知を図り、理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学時や契約時に分かり易く説明したり、疑問点をうかがうようにしている。契約時には契約書の読み合わせを行い、理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている。契約書にも明記してある。クレームノートを用いて職員間にも周知している。	ホーム訪問時に声掛けしたり、運営推進会議で家族の意見を聴くようにしている。また、聴き取った要望や意見はクレームノートを用いて職員間で共有し、スタッフミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案事項など、稟議書にて運営者に提出している。連絡ノートの活用やスタッフミーティング時に意見交換をしている。	日々のケアの中でその都度意見を聴いている。気づきなどは連絡ノートで共有し、スタッフミーティングで話し合っている。また、管理者と職員の能力評価に関する個別面談もあり、意見を聴く場となっており、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	保育支援制度やキャリアアップ支援制度を設けている。今年度は介護職員処遇改善交付金もある。また、相談しやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用者は研修期間を設け、面談や力量評価を行いながら育成している。日常の業務を通じて基礎レベルの向上に繋げている。外部研修時間の時間確保までには至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市認知症高齢者グループホーム協議会に入会し、定例会や協議会主催のセミナー、施設間の見学会や交流会などへ参加している。協議会による被災地へのボランティアにも参加できた。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対話を多く持ち、スタッフ一同がコミュニケーションを心掛け、話しやすい場を作り、信頼の構築に努めている。スタッフ間の申し送り、連絡ノート、スタッフミーティングなど、その都度話し合いの場を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメント、入居後のご家族の面会時や電話を通じ、ニーズをすくいあげるように努めている。日々の様子は介護連絡表や写真をお送りし、毎月お伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より多くの対話を持ち、希望されているサービスにおいて適した支援を提供し、なお且つ幅広いサービスの中からも必要なサービスを見極め、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り自らの参加という形で、日々のお手伝いや、行事を共に行っていただけるように支援している。言動は連絡ノートやカードックスなどにより、職員間で情報を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護連絡表や電話、面会時等に日々の様子をお伝えしている。昨年以上に、行事への家族参加の機会を多く持てるようにし、関係強化に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿えるよう、外部の行事参加にお誘いなどをし、関係を築いていかれるように支援している。また、ご家族の協力の元、一時帰宅等に取り組み、墓参などにはスタッフが同行している。	介護度も高くなり馴染みの人との関係が薄れてきているが、入居者によっては一時帰宅や墓参りの支援を行っている。また、家族との電話の取り次ぎや年賀状のやりとりも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の散歩や洗濯物たたみ等、数人で共に行う活動を多くし、お互いの関係を持てる機会づくりを設けている。また、孤立しやすい方へのこまめな声かけやコミュニケーションも忘れない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は実践なし。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話を大切にし、本人の希望や、今後取り組みたいことなどを聞き取れるようにしている。	開設後9年が経過していることもあり、介護度の高い入居者が見受けられる。認知症による行動を職員で検討することにより、意向を把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント、診療情報提供書、御家族からの情報をよく読むとともに、日常の会話の中からも聞き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の記録となるカードックスに記入し、スタッフ全員で情報を共有するとともに、特変事項や注意事項などは連絡ノートを活用し、就業前に全員確認するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者に各担当者を決め、ケアマネと共にアセスメントを行い、サービス計画書を作成している。ケアカンファを行い、皆で意見を出し合い、より良い支援を目指している。	家族の意見シート、現場従業者向けの改善・提案ノートなどがあり、関係者の意見交換を経て計画作成している。変更点は職員全員で情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援する上で、問題となることや気づいたことはカードックスや連絡ノートに記入し、全員で情報の共有をしながら実践し、より良いサービスが提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化があれば、すぐに主治医、看護師、薬剤師、御家族に連絡をし対応している。連絡ノートを通して、その日の内に各スタッフに周知している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、地域包括支援センター、民生委員、介護相談員の方々から情報を頂き、役立てられるように支援している。また、クリスマス会、24時間TV等では地域の方々にパンフレットを配り、多数の参加を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による月2回の定期往診や、訪問歯科による週1回の往診を行っている。他病院への受診希望があれば、それに沿うように支援している。	協力病院の往診のほか、急な発熱や容体の変化等があれば、すぐに電話で医師に相談できる体制をとっている。個別の受診記録ノートがあり、体調の変化が時系列でわかるように工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による相談・指導を頂いている。看護職は個々の利用者の日常生活を把握しており、スタッフ間との連携も取れている。看護師にはいつでも連絡が取れ、緊急時にも素早く対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院時は対応方法などを指示頂いている。きめ細やかに連絡を取り、病院関係者と情報を交換し、早期退院に向け働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にホームでの方針を説明している。重度化の予測がある場合、早い段階から主治医・家族と連携を図り、今後の方向性についてスタッフと情報を共有し、チームで支援するようにしている。	ホームでの看取りは行わない方針である。食事が自力で摂れなくなることが退居の目安の一つとなっている。退居に関しては医師の判断を中心に、家族との話し合いの上、決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応をスタッフルームに掲示したり、ミーティング時に実習を取り入れたりしているが、全職員が実践力を身につけているとは言えない。救急車の手配や緊急連絡網は確立している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全利用者参加の元、年2回の消防署への通報訓練及び屋外への避難訓練を行っている。今回の震災を踏まえ、災害時の備品類を見直し、確保している。また、ご家族への緊急連絡方法も作り直した。	3月の大震災以降、家族への緊急連絡方法を見直した。電話は繋がりにくいため、新たにメールアドレスを記した緊急連絡網を作成している。また日々、見回りを行っている。	築年数をかなり経た古いマンションの2階部分にあるホームであり、防災は日ごろから常に意識することが望まれる。夜間想定訓練も必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃、ひとりひとりの性格、個性に合った声かけを心掛けている。また、スタッフミーティング時などで提案や改善点など意見を出し合い、ケアに繋げている。	認知症の進んでいる入居者も多いことから、勉強会等を開催し、人格を尊重した対応、プライバシーを確保したケアなどを常に意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望に添い、上手く希望が伝えられない方にも、色々な選択肢を示し、希望を伺うようにしている。また、帰宅願望が強い方の不穏時には、一緒に外へ出る支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等は順番がある為、希望にそえないこともあるが、可能な限り希望にそえるよう努めている。レクリエーションも気が進まない方へは無理強いほしない。日課の散歩を楽しみにされている方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色やデザインをお渡ししたり、選べるようにしている。髪型も好みに合わせ、スタッフが散髪している。衣類のクリーニングも行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら作成。準備や片付けもできる事は参加をして頂いている。行事食や季節に合わせたメニューの提供をしている。外出行事のお弁当も好評である。	認知症が進んでいたり、身体の介護度が上がっている入居者が多いため、共に食事づくりをすることは難しいが、職員とともに同じ食卓で、楽しそうに出来たての食事を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの偏りがないようメニュー作成している。高脂血症、高血圧、肥満、ミキサー食等個々に工夫している。水分量も記録し、十分な水分補給ができるよう努めている。残飯のチェックも参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとりに合わせた口腔ケアの声かけ若しくは介助を行っている。口腔ケアチェック表も活用している。夜間は義歯を預かり、義歯洗浄剤での消毒をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜ともに、ひとりひとりの排泄パターンに合わせ、声かけ若しくは誘導を行っている。パッド使用者も出来るだけトイレでの排泄ができるよう努めている。	入居者個々の排泄間隔を把握し、トイレ誘導をしている。尿意を訴えない人にも、トイレに座ってもらい、促しをしている。便秘予防には水分や繊維質を多く取るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をし、便秘にならないよう、薬だけでなく、十分な水分補給や繊維質摂取、腹部マッサージなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの状況や体調に合わせて、気分よく入浴して頂けるようにしている。拒否がある場合の声かけ等も工夫している。湯船で歌を歌ったり、ストレッチのお手伝いをする方もいる。脱衣所には壁掛け扇風機を設置。	週に2回、日中の1時30分から4時くらいまでが入浴の時間になっているが、状況や体調に合わせて柔軟に対応している。職員の介助で家庭的なお風呂を楽しんでいる様子が伺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の居室環境を毎晩整えている。(室温、湿度など)個々の生活スタイルに合わせて、就寝時間も特に決めず、ご本人の希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬シートのファイルをスタッフがいつでも確認できるようにしている。薬の変更時等は連絡ノートや受診ノートにより情報を共有している。症状の変化時等は薬剤師に連絡を取り、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来る事に合わせて、お手伝い頂いている。感謝の意を伝えることにより、"役割"による意欲を引き出すようにしている。また、個々に合わせたレクリエーションを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の時間を設けている。また、スタッフ同行での買い物なども外出の楽しみとなるよう支援している。自力歩行できる方が少なくってきており、今後の課題も残る。	多くの入居者の介護度が上がっている現状であり、筋力維持のため日々の散歩、立ち上がりの練習、マッサージやストレッチなどに努めている。また大型の車を使い、梨狩りやぶどう狩り、花見などの行事も行っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常は金庫にお預かりし、外出時に財布をお渡しし、管理、支払いを行えるよう支援している。ご家族の了解のもと、所持していた方には小額お渡ししている。買い物同行や散歩時にご自分で選んで好物を買われたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできる体制になっている。不安な方は、定期的な電話をご家族にお願いし、お話されている。携帯電話をお持ちの方もいる。文章を書ける方が少なくなっており、字を書く練習を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内、全て清潔を心掛け、ドクタープラス(次亜塩素酸)を使用し、消毒・除菌している。リビングは季節毎のレイアウト、行事やご家族との写真を飾り、季節感を演出している。また、熱中症対策の為、リビングに温度・湿度計を設置。	築年数をかなり経た古いマンションの2階フロアを改装したホームだが、古い調度品や壁紙に合わせて季節の飾りを配して、居心地のよい空間になるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、テレビを観たり、おしゃべりをしたり、うとうと居眠りをしたり、カラオケなどをしたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのADLに合わせた設置をしている。ご家族の写真や思い出の品物を飾ったりし、個々の空間の確保に努めている。必要な電化製品等はご購入頂いている。	居室担当者がおり、各居室の清掃やリネン交換、布団干しなどを行っている。個々に思い出の品や馴染みの道具を持ち込み、その人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内、全バリアフリーとなっており、廊下、トイレ、浴室等には手すりが設置されている。個々の居室に手作りの表札、大きな字のカレンダーの設置やトイレを示す表示もしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所